

鍼灸等研究費研究成果 要約	
研究課題名	スポーツ分野における鍼灸マッサージに関する文献的調査
班長 氏名/所属機関	近藤 宏 / 筑波技術大学 保健科学部
班員 氏名/所属機関	泉 重樹 /法政大学 スポーツ健康学部 金子 泰久 /呉竹学園東洋医学臨床研究所 櫻庭 陽 /筑波技術大学 保健科学部 玉地 正則 /不動前鍼灸治療院 鳥海 崇 /東京メディカル・スポーツ専門学校 松下 美穂 /森ノ宮医療学園専門学校 山口 由美子 /関西医療大学 池宗 佐知子 /帝京平成大学 ヒューマンケア学部 藤本 英樹 /東京有明医療大学 保健医療学部 吉田 成仁 /帝京平成大学大学院 健康科学研究科 吉田 行宏 /明治国際医療大学 鍼灸学部 古屋 英治 /東京医療専門学校
成果	
1.目的	<p>本研究の目的は、スポーツ分野における鍼灸マッサージに関する文献を網羅的に収集・吟味し、統合することにより、スポーツ分野における鍼灸マッサージの有効性や安全性を確認することである。</p>
2.内容	<p>下記の選択基準を満たした論文についてレビューを行った。①鍼灸マッサージに関する臨床試験である、②対象がスポーツ選手または症状がスポーツや運動に起因または関連している。③研究デザインがランダム化比較試験 (randomized controlled trial: RCT)、準ランダム化比較試験 (quasi-randomized controlled trial: quasi-RCT)、クロスオーバー比較試験である。④英語または日本語で報告されている臨床研究である。論文の検索には、PubMedと医学中央雑誌Web版、SPORTDiscusの3つのデータベースを用いた。スクリーニングは、データベースによる検索後、検索担当者によって、各データベース間の重複論文を削除し、タイトルやアブストラクトから明らかに選択基準を満たさないものは除外した。その後、構造化抄録作成の過程で選択された対象論文を吟味し、最終的な選択、除外を決定した。</p>

<p>3.成果/考察</p>	<p>候補書誌からスクリーニングにより関連のない論文を除外し、最終的には、医学中央雑誌より 9 編、MEDLINE より 12 編、SPORTDiscus より 21 編の合計 42 編の論文が、構造化抄録作成の評価対象となる最終選択書誌として選定した。</p> <p>介入方法では、マッサージ 19 編が最も多く、次いで、毫鍼（マニュアルによる置鍼、単刺、鍼通電などを含む）10 編、円皮鍼 4 編と続いた。対象者の合計は、2,166 人であった。スポーツ選手を対象とした論文は 15 編であった。スポーツ競技種目は、サッカー 4 編、マラソン・ランニング 4 編、トライアスロン 2 編と続いた。対象者のスポーツ外傷、障害に関する症状または疾患は、疲労 5 編、筋性疼痛・筋障害 5 編が最も多かった。アウトカムでは、血主観的指標 31 編（VAS, NRS）が最も多く、次いで筋力 14 編、血液成分 14 編、と続いた。本研究から得られた結果は、今後のスポーツ選手や選手を支援する関係者をはじめ、国民にむけて鍼灸の有効性、有用性を発信するための意義のある基礎的資料となるであろう。</p> <p>成果の公表については、本報告書の内容を一部改変し、抽出された 42 編の論文の構造化抄録を加え、冊子を作成し、国立国会図書館に登録する。また、厚生労働省の「統合医療」情報発信サイト（eJIM）統合医療エビデンス構造化抄録（URL: https://www.ejim.ncgg.go.jp/doc/index.html）への掲載を目指す。</p>
<p>4.鍼灸等研究委員会からのコメント及びコメントを踏まえた対応等</p>	